

図5 大雪山 赤外熱映像装置によるI-1噴気孔の地表面温度分布 南西側(図3の②)から撮影
 ・前回(2019年8月)の観測と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。なお、I-1噴気孔の南西側に前回みられなかった地熱域(白破線内、1m程度の拡がり)を確認しました。

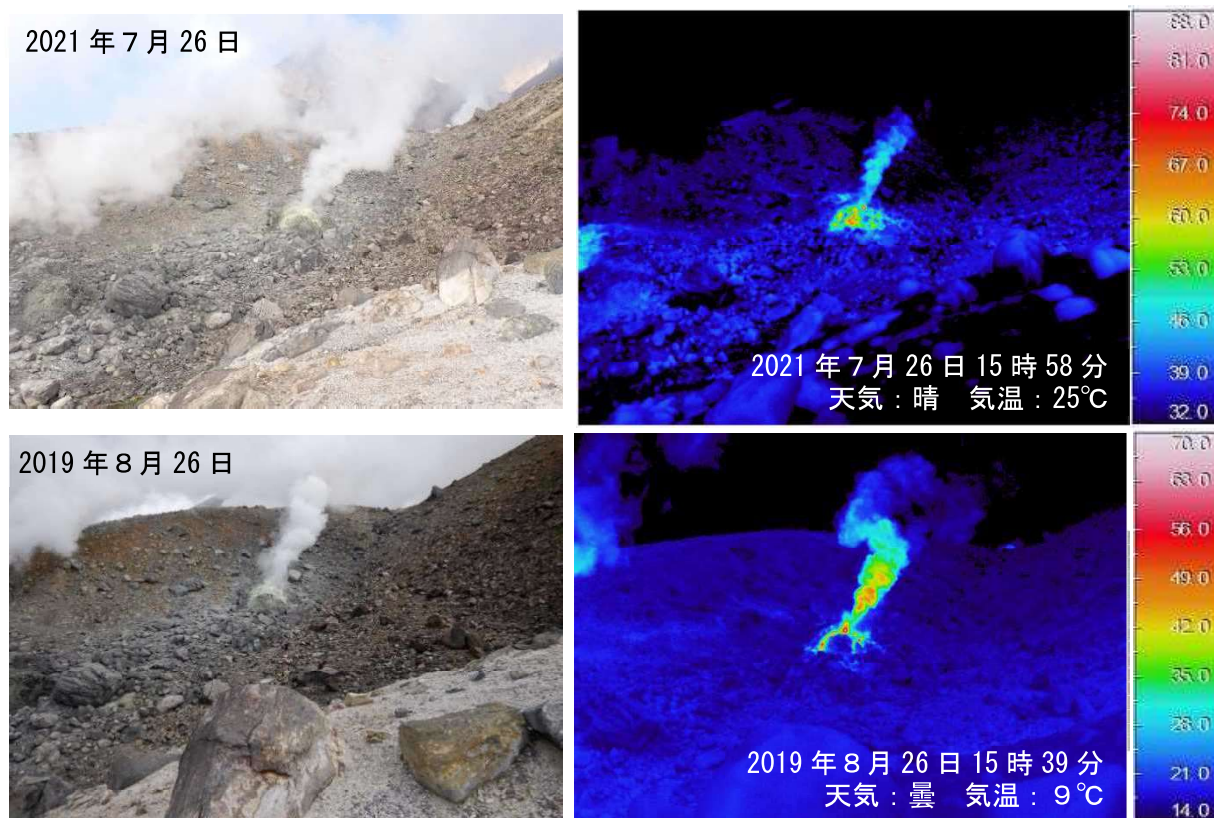


図6 大雪山 赤外熱映像装置によるI-2噴気孔の地表面温度分布 南西側(図3の②)から撮影
 ・前回(2019年8月)の観測と比べて、噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

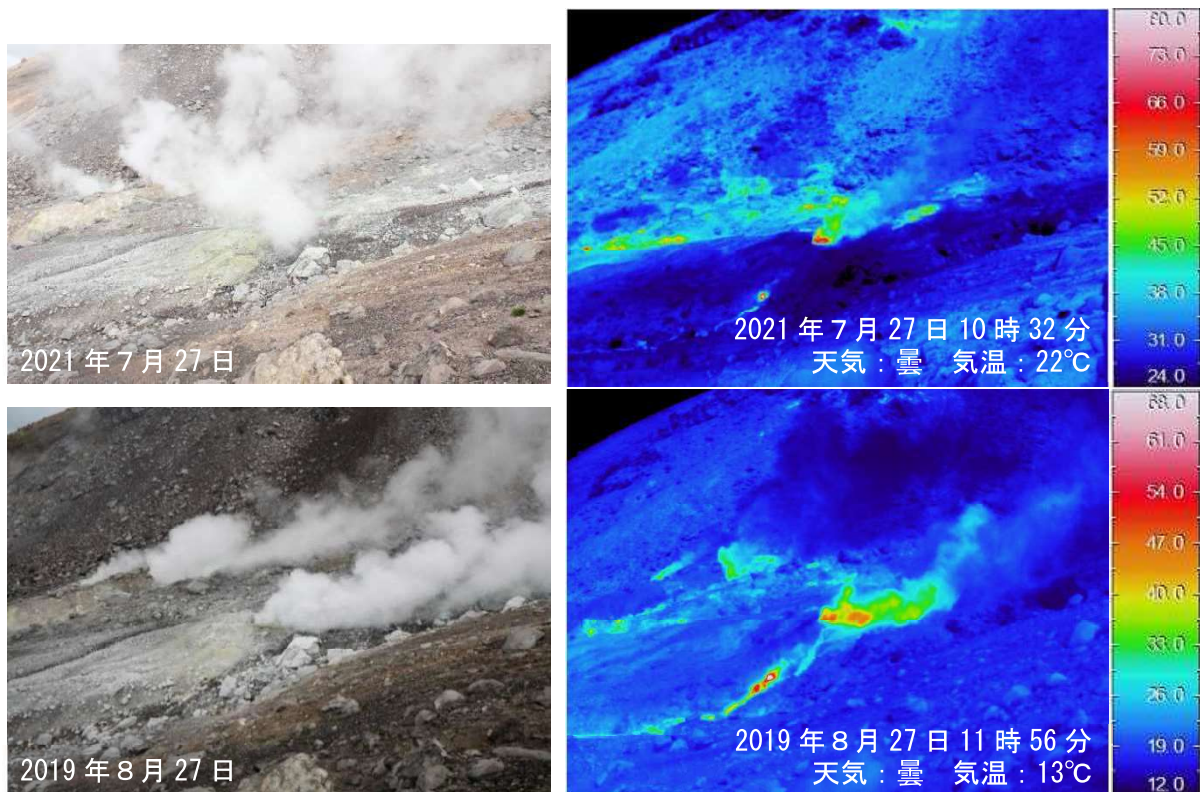


図7 大雪山 赤外熱映像装置によるI-5噴気孔群の地表面温度分布 南側(図3の③)から撮影
・前回(2019年8月)の観測と比べて、噴気の勢いに特段の変化はみられず、地表面温度分布も、噴気や日射の影響で見え方に違いがありますが、特段の変化は認められませんでした。

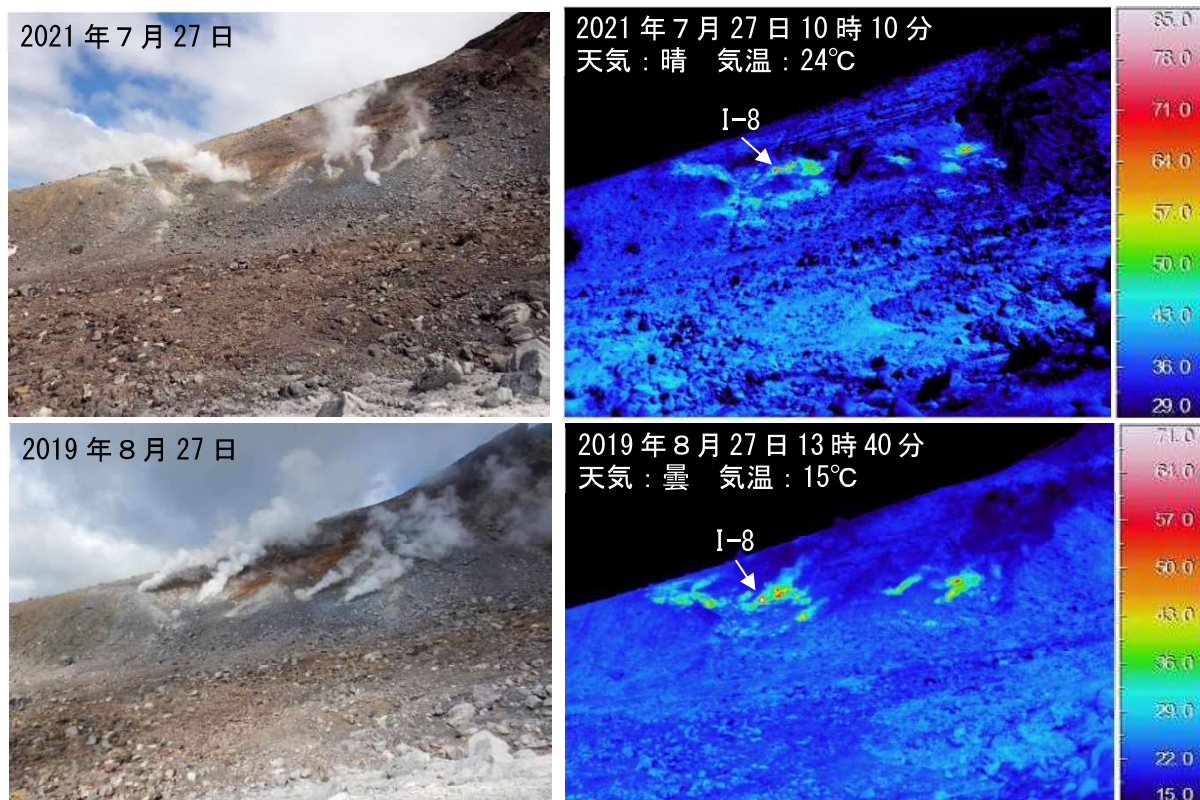


図8 大雪山 赤外熱映像装置によるI-6~9噴気孔群の地表面温度分布 南西側(図3の④)から撮影
・前回(2019年8月)の観測と比べて、噴気の勢いに特段の変化はみられず、地表面温度分布も噴気や日射の影響で見え方に違いがありますが、特段の変化は認められませんでした。

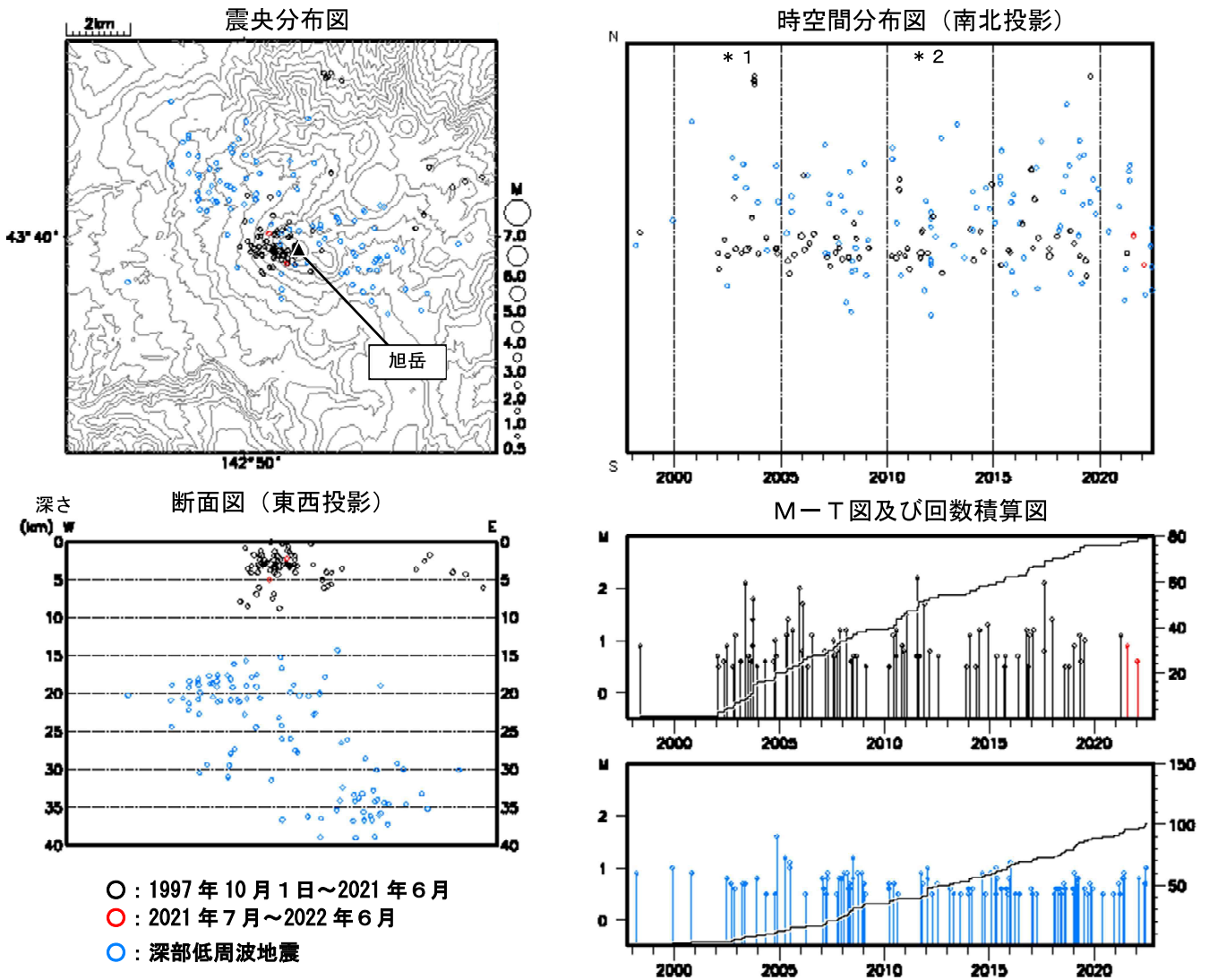


図9 大雪山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震
(1997年10月~2022年6月、 $M \geq 0.5$ 、深さ40km以浅)

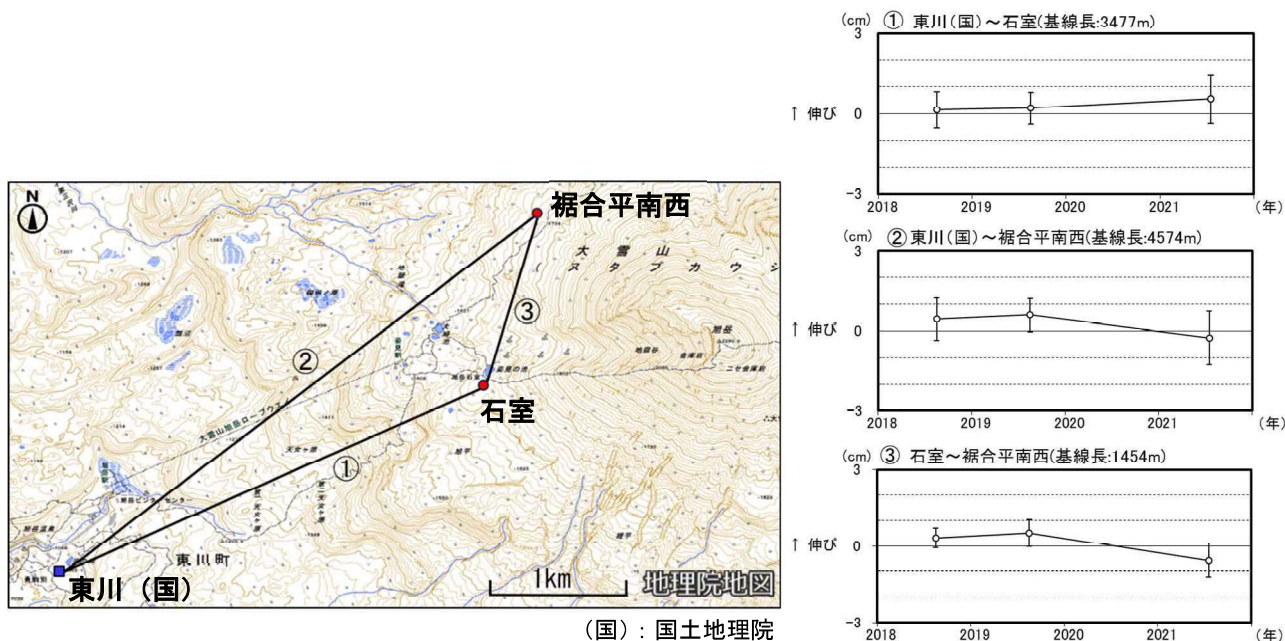


図10 大雪山 GNSS繰り返し観測による基線長変化及び観測点配置図 (2018年8月~2021年7月)

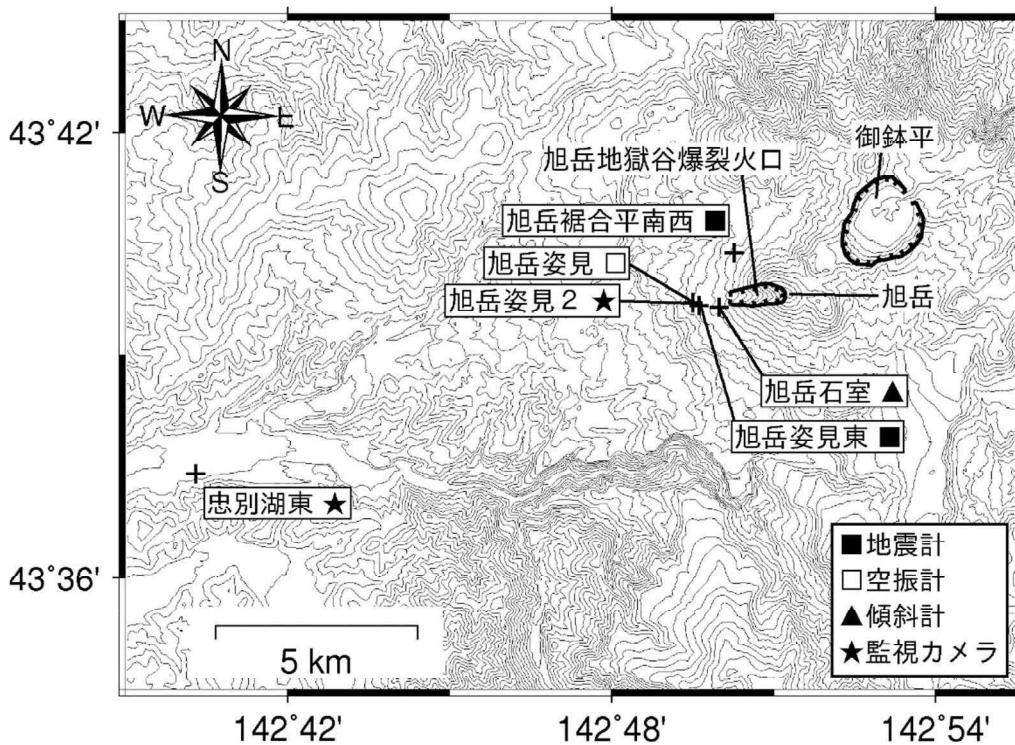


図11 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します。